

## お知らせ

### 第四級海上無線通信士資格取得支援のご案内

一般社団法人 全国船舶無線協会 事務局

全工協では、平成 18 年度から実施している第四級海上無線通信士の資格取得を支援する通信教育及び直前講習を、平成 29 年度においても実施することとし、この実施要領及び参加手続きを「むせんこうじ 7 月号」及び当協会ホームページでご案内しました。

受講申込期限は過ぎましたが、受講希望の方は申し込みを受け付けますので 9 月 25 日(必着)までに FAX(必着)にて申し込んでください。

ここでは、この講習会への参加を検討している方の参考に供するため、船舶無線工事に従事する方にとってのこの資格の有効性、この資格を取得するための通信教育及び直前講習のメリット、当協会の実施した通信教育及び直前講習受講者の国家試験の合格状況等をお知らせします。

海上関係無線局の点検を行うために有効な資格をまだ持っていない方、海上通信の分野で仕事をすることを希望する若者たち、この機会にこの講習会に参加して資格取得に挑戦してみてください。

#### 1 第四級海上無線通信士資格の有用性について

##### (1) 無線局点検業務での有効性

この資格は、無線局検査において、海上関係無線局の点検を行う者（点検員）の資格要件のうち、最も取得の容易な資格といえます。

海上・航空関係の無線局（海岸局、航空局、船舶局及び航空機局）の点検員の資格要件は、第 1 級～第 3 級総合無線通信士、第 1 級～第 4 級（第 3 級を除く。）海上無線通信士、航空無線通信士、第 1 級及び第 2 級陸上無線技士です。

陸上関係無線局の点検のできる陸上特殊無線技士及び第 1 級アマチュア無線技士の資格では、海上・航空関係無線局の点検はできません。

また、電波法の一部改正により導入された定期検査に係る登録検査等事業者についても、点検員の資格要件は従来からの登録点検事業者の点検員と資格要件は同じです。

##### (2) 無線局の無線設備の操作の範囲について

次に掲げる海上関係無線局の無線設備の操作（モールス通信、国際通信及び多重無線設備の技術操作を除く。）を行うことができます。

- ① 船舶に施設する 250 ワット以下の無線設備（船舶地球局を除く。）
- ② 海岸局及び船舶のための無線航行局の 125 ワット以下の無線設備
- ③ 海岸局、船舶局及び船舶のための無線航行局のレーダーの外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないもの

このほか、第四級アマチュア無線技士の操作の範囲に属するアマチュア局の無線設備の操作を行うことができます。

## 2 資格取得の方法について

(1) この資格を取得する方法は、大きく分けて、①国家試験に合格して取得する方法と②養成課程を修了して得る方法の二つがあります。

②の養成課程の場合、授業時間が無線工学 45 時間以上、法規 43 時間以上の課程を終了する必要がある、経済的及び時間的に大きな負担となります。

また、この養成課程を実施するには、実施する養成課程ごとに事前に監督官庁の認定を受ける必要がありますが、事務局で調べた範囲では、平成 29 年度において一般の方を対象とした第四級海上無線通信士の養成課程の計画は見当たりません。

①の国家試験に合格する方法として、当協会では、この資格程度の試験問題であれば、通信教育及び直前講習を効率的に実施して既出問題を中心に勉強をすれば、国家試験で合格する知識・技能を得ることができると判断して、この方法による資格取得の支援を平成 18 年度から実施しています。

平成 28 年度に本コースの「通信教育及び直前講習」を受講された方の合格率は 91.6%となっており、一般受験された方の合格率 62.9%を大きく上回っていますので、合格率のアップは期待できるものと確信しております。

(2) 科目合格制度について

第四級海上無線通信士資格の国家試験の試験科目は無線工学と法規で、両科目に合格すれば資格が取得できます。

不幸にして、1 回の受験でどちらか一方の科目が不合格でも、科目合格の制度により、3 年以内であれば何度でも再受験して不合格の科目に合格すれば資格は取得できます。

なお、第四級海上無線通信士資格の国家試験は、毎年 2 月と 8 月の 2 回、公益財団法人日本無線協会により実施されています。

(3) 国家試験の内容と合格点について

試験問題の形式は多肢選択式ですが、そのうち A 問題が択一式又は補完式、B 問題が正誤式です。

過去の問題数、配点、採点基準及び合格点は、概ね次のとおりです。

### ① 無線工学

試験問題：問題数 18 問 試験時間 2 時間、採点基準：満点 90 点 合格点 63 点

配点内訳：A 問題 13 問 65 点 (1 問 5 点)

B 問題 5 問 25 点 (1 問 5 点、ただし、小設問各 1 点)

### ② 法規

試験問題：問題数 20 問 試験時間 1 時間 30 分、採点基準：満点 100 点 合格点 70 点

配点内訳：A 問題 14 問 70 点 (1 問 5 点)

B 問題 6 問 30 点 (1 問 5 点、ただし、小設問各 1 点)

## F A X 送付状

平成 29 年度 第四級海上無線通信士資格取得支援  
「通信教育」及び「直前講習」受講申込書（兼希望調書）

平成 29 年 月 日

一般社団法人 全国船舶無線協会 事務局 御中

( F A X : 03-3915-6360 )

受講申込者の氏名 \_\_\_\_\_ 印

私は、貴協会主催の第四級海上無線通信士資格取得支援講習会の受講を申し込みます。

受 講 の 内 容	1 全コース受講（通信教育及び直前講習） 2 通信教育コースのみ (1)工学のみ (2)法規のみ 3 直前講習コースのみ (1)工学のみ (2)法規のみ
参加者の氏名及び性別	刀がナ  ( 1. 男 2. 女 )
生年月日及び年齢	昭和・平成 年 月 日 ( 歳)
参加者の住所	〒 _____
教材の送付先（住所と同じ場合は省略可）	〒 _____
会員・非会員の別	1. 会 員 ( 全工協 全無協 ) 2. 非会員
会員名（会員の方のみ記入）	
最 終 学 歴	
無線従事者資格の有無（資格の種別等）	1. 有り 資 格 名 免 許 記 号 番 号 2. 無し
四海通の科目合格の有無（試験期等）	1. 有り ( 法規 無線工学 ) 試 験 期 平 成 年 月、受 験 番 号 2. 無し
船舶無線整備士の有無（資格の種別）	1. 有り ( ) 2. 無し
連絡先（日中連絡が取れる所）	勤め先等の名称 電話番号： F A X 番号：
国 家 試 験 受 験 希 望 地	東京 札幌 仙台 長野 金沢 名古屋 大阪 広島 松山 熊本 那覇

申込期限：平成 29 年 9 月 25 日(必着)